

ArCS テーマ 1&7 合同シンポジウム 移り行く北極域と北極圏の人間社会

主 催：北極域研究推進プロジェクト（ArCS）テーマ 1 & 7

共 催：北海道大学北極域研究センター，北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター，国立極地研究所 国際北極環境研究センター

日 時：3月20日（水）午後1時00分～午後5時10分

会 場：TKP 品川カンファレンスセンター ANNEX(カンファレンスルーム 4)

東京都港区高輪3丁目13-1 TAKANAWA COURT 3F

シンポジウムの目的：地球気候変動の最前線ともいべき北極域が直面する環境ならびに社会的課題への取り組みには、自然科学・人文社会科学を横断した広範な視野からのアプローチが不可欠であることが、広く認識されるようになってきました。本シンポジウムは、ArCS 北極域研究プロジェクトにおけるテーマ 1（気象・海水・波浪予測研究と北極航路支援情報の統合）とテーマ 7（北極の人間と社会：持続的発展の可能性）が進める研究成果を双方で共有し、自然科学・工学研究と人文社会科学分野の研究を連携し、その研究成果を北極に関心をもつステークホルダーに紹介することにより、多様なアクターへのインプットをはかることを第 1 の目的としています。合わせて、両テーマグループの活動をもとに、北極研究の領域拡大、社会・産業・政策との連携の可能性の拡大を指向して、日本における北極研究の意義と課題を提示することを目指します。

対 象：北極海の気象・海水変動と予測、北極域の持続的利用（北極航路、資源開発など）および変化に直面する北極圏の人間社会に関心を有する研究者、エンジニアリング・資源開発・船社・商社等の企業、政策決定者・公的セクター関係者、マスメディア、学生、一般の方など、広い領域の皆様のご来場をお待ちしております。発表内容は、過度に専門的とならないものとなります。また、使用言語は日本語です。

参 加 費：無料

申 込 方 法：下記に E-メールにて、お名前、ご所属・ご職位、ご連絡先(E-メールアドレスまたは電話番号をお送りください。なお、お送りいただきました情報は今後のシンポジウム内容の企画のためのみに活用させていただきますことを、ご了承ください。個人情報提供がご心配な方は、お名前またはご提供可能な事項のみでも結構です。

lixiaoyang@arc.hokudai.ac.jp （お問い合わせも左へ）

プログラム（予定）：

Time	Title	Speaker
13:00	開会	
第 1 部： ArCS 北極域研究成果より		
13:05-13:35	海洋地球研究船「みらい」（R/V「みらい」）初冬航海による北極研究の深化 猪上 淳	猪上 淳（国立極地研究所 国際北極環境研究センター、准教授）
13:35-14:05	R/V「みらい」による飛沫/着氷観測	伏見修一（東京大学大学院 新領域創成科学研究科 海洋技術環境学専攻 海洋情報基盤学分野、修士 1 年）
14:05-14:35	移り行く北極域と北極圏の人間社会、 テーマ 7 のイベントアーカイブを追って、 研究活動の足跡を概観する～	後藤正憲（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、特任助教）
14:35-15:05	北極海航路、新たなエネルギー資源輸送回廊出現から商業航路に向けて	大塚夏彦（北海道大学 北極域研究センター、教授）
15:05-15:25	休憩	
第 2 部： 日本における北極研究と課題		
15:25-15:55	ArCS プロジェクトの成果発信と社会との連携の取り組み	末吉哲雄（国立極地研究所 国際北極環境研究センター、特任准教授）
15:55-16:10	調整中：我が国における北極課題への取り組み～Arctic Circle を通じた国際連携	調整中
16:10-16:25	休憩	
16:25-17:10	総合討論：北極研究の領域拡大、社会・産業・政策との連携 モデレータ：大塚夏彦	大塚：進む北極海の産業利用と課題 末吉：ArCS 北極研究から～国際貢献の展望 猪上：気象・北極海の観測の重要性と課題 伏見：“R/V「みらい」に乗船して（現地観測の経験）” 後藤：移り行く北極域と北極圏の人間社会の研究がもたらすもの
17:10	閉会	